

神崎市水源地域活性化推進会議 第2回全体会議 議事抄録

開催日時	令和6年12月20日（金） 13:00～15:30	
開催場所	神崎市役所 3階会議室	
出席者	委員	17名中16名出席 神崎市 市長 實松 尊徳 会長 神崎町区長会 羽立 一喜 委員 千代田町区長会 野口 博美 委員 脊振町区長会 鶴田 良治 委員 佐賀大学 教授 五十嵐 勉 委員 作業部会方針1 部会長 藤永 正弘 委員 作業部会方針2 部会長 真島 久光 委員 作業部会方針3 部会長（代理） 内村 和憲 委員 作業部会方針4 部会長 本間 昭久 委員 国土交通省 佐賀河川事務所 遠山 修平 委員 佐賀県 城原川ダム等対策室 山浦 章雄 委員 神崎市 総務企画部 中島 勝利 委員 神崎市 産業建設部 嶋 耕二 委員 神崎市 産業建設部 花島 初善 委員 神崎市 産業建設部 松永 義彦 委員 神崎市 脊振支所 吉田 稔 委員
随行者		国土交通省、佐賀県 計2名
傍聴者		3名
報道機関		2名

議 事 録

開会 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・神崎市水源地域活性化推進会議 第2回全体会議の開会に先立ち、事務局の司会により、当委員会の傍聴及びホームページ等での議事録（発言者匿名、発言内容の要旨）の公開について、委員より了解を得た。 ・配布資料を確認した。 <p>[配布資料]</p> <p>次第</p> <p>資料-1 神崎市水源地域活性化推進会議 委員名簿</p> <p>資料-2 推進会議設置要綱</p> <p>資料-3 推進会議の構成（再掲）</p> <p>資料-4 第1回全体会議 議事抄録</p> <p>資料-5 令和5年度の実施状況</p> <p>資料-6 作業部会名簿（参加団体紹介シート）</p>
-------------	---

	<p>資料-7 作業部会開催記録</p> <p>資料-8 イベントの実施等</p> <p>資料-9 各作業部会の検討状況・活動報告</p> <p>資料-10 稼働中・検討中のプロジェクト一覧</p> <p>資料-11 今後のスケジュール</p> <p>城原川ダム建設事業の事業説明（国土交通省）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本委員会は定刻に開会した。
<p>会長あいさつ (實松市長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本推進会議の会長である市長より挨拶を行った。 <p><以下、挨拶の概要></p> <p>本日はお忙しい中、本推進会議の開催にあたり多くの皆さんにご参加をいただいたことに御礼申し上げたい。また、今回の第2回全体会議は、本来であれば令和5年度の3月に開催を予定していたところであるが、神埼市の不祥事等により、開催が今になったことを最初にお詫びしたい。</p> <p>改めて申し上げるまでもないが、城原川ダム建設に伴って周辺地域がどうなるのかという不安の中で、このダム建設を新たな地域活性化の起爆剤としてしっかりと取り組もう、その際に多様な事業主体、関係者が連携しながら、また共同しながら取り組んで、この地域を良くしていこうということで、この会議体が設けられていると理解している。先立って策定されている水源地域振興計画にあげられている施策を一つでも多く実現できるよう取り組んでいかなければいけないと考えている。</p> <p>その際には、本日おみえの地域の皆様、国および県の機関と神埼市が一体となって連携しながら進めるという意味でも、このような場を設けてしっかりと情報交換、情報を共有し、意見交換をしながら、着実に事業を前に進めていくことが大事であろうと考える。</p> <p>本日、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただき、よりよい会議の場としていきたいと思うので、皆様のご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>委員紹介 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料1に基づき、委員紹介を行った。
<p>神埼市水源地域活性化推進会議設置要綱について (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料2に基づき、神埼市水源地域活性化推進会議設置要綱について説明した。
<p>具体的施策の推進体制について (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料3に基づき、推進会議の体制について説明した。
<p>議長(副会長) あいさつ (議長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議進行が五十嵐議長(副会長)に移行した。 <p><五十嵐議長(副会長)の挨拶></p> <p>今回から新しく参加された方もおられるが、限られた時間の中で自由闊達なご意見をいただくことで内容が良くなっていくと思っているので、よろしくお願いしたい。</p>

<p>報告事項 1) 城原川ダム事業 について (国土交通省 所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 城原川ダム建設事業の事業説明に基づき、城原川ダム事業について報告した。 ● 委員からの質問・意見等はなかった。
<p>報告事項 2) これまでの活動 経過について (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料 4～8に基づき、これまでの活動経過について報告した。
<p>議長</p>	<p>この会議自体が全員男性で女性が一人もおられない。様々な団体の代表の方から構成されるということもあるが、作業部会の活動においては是非とも女性の方、若い世代の方々が多様な形で積極的に部会の活動に関われるような努力を一方で進めていく必要がある。</p>
<p>議題 1) 作業部会の検討 状況・活動報告 について (各部会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料 9に基づき、各作業部会から部会における検討状況・活動報告について説明した。
<p>部会長 方針-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方針 1 部会は、①脊振山系の豊かな自然環境の保全、②水資源の活用をテーマとしている。進めていく施策としては、大別して森林環境の保全利用、里山としての環境や景観の保全となる。 ● 森林に関しては、豊かな水源確保のため脊振町の森林において、植える・世話をする・育てる・切る・加工する・使うのサイクルを地域一体で進めることが非常に大切と考えている。これについては、作業部会のメンバーである森林をつくろうを中心に、有明海の漁協や森林組合、地元企業および神埼市の林業課と連携して、現在それぞれの団体で行われている活動を、複数の団体が共同して実施して、さらに効果的なものとなるよう取組みを進めたい。 ● 林業課ではカーボンオフセットの取り組み (J-クレジット) に着手しており、これも間伐の推進や市内企業の二酸化炭素削減に寄与するものとなるため、今後は市内の企業との連携を進めていただきたい。 ● 里山の環境景観保全について、仁比山地区周辺は山に囲まれた脊振地区と異なり里山の景観が美しい場所である。ただし、耕作放棄地なども増えており、付替道路の建設などで景観が損なわれていくという懸念もある。休耕田を生かす取り組みとして、市民農園あるいは空き家の活用など、里山と田園の景観を残し、生かすために散策ルートをつくるなどの取り組みを進められればと思う。これらの取り組みは、例えば大学生を巻き込みながらできればよい。 (以降、資料-9掲載の事例説明を実施)
<p>部会長 方針-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方針 2 部会は大きく分けて歴史資源と水文化について議論をしてきた。神埼市には貴重な歴史や文化資源がたくさんあり、これらの魅力を伝えて地域の活性化を目指すことが必要と考える。 ● (広滝水力発電所について) 発電所は明治41年に完成し、いまだに現役で稼働し

ている発電所で、九州の近代文化遺産として非常に価値が高い。「脊振を愛する会」では、毎年、脊振中学校の生徒に発電所の歴史や水路の構造などを説明する取り組みを行っている。地元としては、たとえダム建設に伴って発電所の機能がなくなっても、地域の交流や学習の拠点として、移転してでも建物を残してほしいという意見が多く出ている。

- (歴史文化資源の例について) 脊振山の山頂にある佐賀県遺産の石宝殿や国登録有形文化財の脊振小学校の石門、脊振神社や山岳信仰の伝承などがある。また、佐賀県遺産の仁比山神社、仁王門なども大変貴重なものと思う。
- (野越について) 今後の河川改修でどのような形にしていくのか情報をいただき、歴史文化を学ぶ場として活用できないかと考えている。
- 歴史や文化等については、チラシ等で情報提供するだけではなく、ガイドの育成が重要だと考える。観光ガイドから直接話を聞くことで知識を広げ、感動があったりして、歴史や文化をより深く知ることができる。脊振を愛する会では、ツアー客などに会員のガイドをつけて説明を行っている。
- (水文化の継承について) 水車の歴史を伝える水車の里の活性化や城原川の治水の歴史についてもっと議論が必要と考えている。また、子供たちが安心して川遊びができるような場所の整備やルールづくりも必要と考える。
- (水車の里について) かつて仁比山小淵地区には60基ほどの水車があり、精米や製粉、製材などに活用されていた。水車の里振興会では、こういった歴史を伝えるために整備された水車の里を活用して地域活性化に取り組んでいる。九年庵の一般公開に合わせて水車米の販売拡大にも取り組んでおり、今年の秋は活性化推進会議としてスタンプラリーを実施し、540名の方に参加いただいた。
- 歴史資源等の関連項目として、1つ目は水源地域周辺の道路整備を提案したい。ダム周辺地域では、地域の活性化を図るための様々な取り組みがなされているが、市道が整備できていないため、バスツアーの計画や大型車が通行できないといった問題がある。歴史資源や水文化の案内などで地域を今以上に活性化するためには、交通網の整備が必要であり、道路整備や駐車場の整備、トイレの充実は欠かせないとする。(市道政所倉谷線の整備、県道三瀬神埼線の未改良区間の整備を要望)
- 2つ目は付替道路区間へのサクラの植栽である。県道三瀬神埼線は、岩屋からメガネ橋の間は桜街道として人々が訪れ、桜の名所になっている。仁比山から岩屋までの付替道路区間にも桜を植えてほしい。
- 3つ目として水没地の農地の貸付である。城原川と倉谷川の合流周辺の農地は、今日まで所有者によって水田や園芸作物などの作付けにより維持され景観が保たれてきた。しかし(所有者がいなくなる)ダムの建設後にはこうした農地が荒廃し、環境が悪くなることが心配である。このため、国が買い上げる土地については、引き続き農地として維持できるよう土地を貸付ける方法がとれないかと考える。当然、大雨の時には浸水することが予想されるが、そのリスクを条件に農地としての貸付けを計画してほしい。それにより土地の荒廃が少なく、農地の維

	<p>持管理もできてダム周辺の環境が維持できると考える。また、落葉樹を植栽して、将来的に九年庵とダム周辺の紅葉をコースとして楽しめる紅葉の森づくりを提案したい。</p>
<p>部会長（代理） 方針-3</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 方針3部会は、農産物や特産品に関わることと、地域に新たな魅力を創出することの2つを柱としている。 • 神埼の特産品として、食物や工芸品などで人気の高い商品を生み出すことが必要。そのために、佐賀大や西九州大といった教育機関や地元企業にも参加をいただいて商品開発ができるような体制づくりができればと考えている。 • 農・特産品のブランド化に関しては、地元の家庭菜園で採れた作物について、例えば週に2回ほど町内を周回して作物を収集して、高取山公園で販売できたら。こうした庭先集荷の仕組みがあると、高齢者の生きがいにもつながっていくのではないかと考えられる。また、農業の担い手不足や高齢化も大きな課題となっている。担い手の育成については、JAさが（佐賀農業協同組合）のチャレンジファームの取組などが進められているが、応募が少ないことや担い手の住居がないといった問題がある。 • 耕作放棄地が増えていく中で一つの打開策として農地の貸し出しによる市民農園や観光農園の創出が挙げられる。福岡市や佐賀市にも近いという特徴を生かして都会の人を集める具体的な取り組みができればと考えている。 • 当面は、既存の高取山公園を拠点として情報発信やイベントの開催を支援するとともに、岩政ハッピーサロンなどの地域で運営する直売所への支援などについて考えねばと思う。 • また、城原川を活かす取組として、水遊びができる場の確保、以前商工会青年部を中心に行っていたヤマメ釣りの復活等で活性化できたらという話も出ている。 • 高取山公園では、アンブレラボールで公園に傘の花を咲かせたり、様々な主体の協力によるイベントを実施しており、今までよりも魅力ある高取山にしたいと考えている。また先月、県主催の山のイベントを行い、700名ぐらいの参加があった。そのほかにも、2月のしいたけの菌打ちや、5、6月のタケノコ堀りなどを行っているので、そういった取組でお客さんを呼べたらと考えている。 <p>（その他資料-9により以下の取組を紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> — 高齢者の生きがい就労に関して、岩政ハッピーサロンの活動などをモデルとして、直売所等を増やし、新しい販路の開拓も行って地域の活性化につなげる。 — 神埼市における貸農園的施設として「菱の里ふれあい農園」があるが、地域主導で遊休農地を使った市民農園などを増やす取組を進める。
<p>部会長 方針-4</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 私自身、20年前に脊振町に移住してきたという経歴がある。当時は脊振村だったが、非常に先進的な移住政策を行っていたと記憶している。これだけ日本中で人口が減少して、特に農村部などでの人口流出が進む自治体が多い中で、それを見越して行政主導で移住政策を進めたという歴史は、脊振にとって非常に評価すべきところと思っている。今現在、小学校、中学校の通っている児童の約半数近くが移住者の子供たちという実態がある。当時、移住政策をしていなければ、学校

の統廃合が議論されていてもおかしくない。

- 脊振町というのは同じ中山間地域でインフラも三瀬を通れば福岡にも行けるし、周辺に雇用の場である久留米市、鳥栖市、また佐賀市という中堅都市も抱えているので、里山に住みながら通勤が可能な立地条件にある。最近建設された合同庁舎には、診療所機能、公民館機能、図書館機能があり、住民サービスという意味でも買い物が不便という1点を除けば、脊振地区はすごく住みやすい所である。人口減少は過疎地域だけでなく日本全国で進んでおり、自治体間で人口の奪い合いとなっている。移住対策は継続性が重要であるため、行政主導の移住政策も勿論必要だが、どちらかというとな新陳代謝的な感じで、年に1、2組でも新しい方が移住してくるような流れをつくるべきというふうな議論をしている。
- 農地法の規制緩和で農地付き空き家が購入しやすくなっていると思うので、そういった部分を表に出すべき。また、行政主体の移住政策だけでは限界があるので、地域住民が地域の良さを発信する、そこに住んでいる人の生の声が移住者にとって一番知りたい情報なので、情報発信も力を入れていくべきと考える。
- 移住者の方は清水の舞台から飛び降りるような形でいきなり空き家を買うとか、家を建てるというのはかなりリスクを伴うので、まずは「お試し移住」的な短期的なステイができたり、地元の方と交流できるような仕組みをつくるべきと考える。鳥羽院山荘や習遊館、また脊振グラウンドなども魅力あるものとして活用していくためのリニューアルが必要だと思っている。
- 佐賀県立大学の創設などが進む中で、学外の既存施設に学生の受入れ体制を整備して、学生が学べるような場の提供もしたいと考える。また、交流体験活動を通じた教育環境の支援が必要。脊振では保育園には子供が多いが、小学校、中学校になるにつれて子供の数が減っていく傾向があり、こうした傾向に歯止めをかけるために魅力的な学校にしていく必要がある。都会では味わえない体験学習の機会の増加や、学校給食のオーガニック化による地産地消の取組など、地域の活性化につながる取組が考えられる。給食費の無償化に関しては、各自治体が定住人口を呼び込むために力を入れていると思うが、移住者側のニーズは、無料だから家計が助かるという意味で移住してくるという単純な構造ではないと考えていて、そこにオーガニック給食を振る舞うことで、この自治体は非常に食育とか子供を大事にする自治体であるという評価になると思うので、そうしたニーズに応える戦略としてオーガニック給食は今後重要と考える。佐賀県内では、みやき町や上峰町などでこういった動きを進めているので、神崎市もこうした流れに目を向けてもらえればと思う。例えば新規就農者の中でオーガニックの野菜作りを目指す際に、給食という納入先が事前に用意されていることで販路が一つ安心して確保できるということにもなるので、新規就農者、特にオーガニック野菜をつくるような方の就農がスムーズに進むという意味で一石二鳥と思っている。
- 交通施設の整備については、ダム建設による県道の付替えなどが生じるが、現在の桜街道を継続したり、歩道やサイクリングロードを整備するなど、沿道の魅力化や交通手段の確保について提案していくことが必要と考える。

	<p>(以下スライドの説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家バンクへの登録促進のため、新たに空き家相談窓口が脊振町内に3カ所設けられた（作業部会メンバーも協力）。こうした取組を効果的に進めるため、地域における空き家説明会などを行い、地元主体で空き家候補地を見つけていくなどの取組を進めたい。まずは移住者の受入れ先として提供してもらえる空き家を探してモデルハウスのようなものを作ったり、地域の交流の場として活用するなど、市と協力しながら空き家の活用事例を作りたい。 国交省の農地付き空き家、農林水産省の市民農園など、国の施策の説明。 子供たちへの体験の場の提供ということで、「脊振育友会」、「せふりの風」の取組の紹介。本推進会議の立ち上げを契機に、これまで親子で実施してきた活動にお年寄りも巻き込んで、お年寄りの経験や知恵を若い世代に伝承していくなど、今後は活動のメニューをさらに広げていければと考える。
<p>部会長（代理） 方針-5 （事務局）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 方針5部会は、城原川ダムや水源地域での活動についての情報発信を目的とする部会である。この部会では、ダム事業で移転や付替道路など今までの生活が一変する上流域の方々に対して、ダムの恩恵を受ける下流域の人たちが感謝の気持ちを持ち、お互いが寄り添えるような関係性を築いていきたいという思いが基礎になっている。そのために主に議論されている内容は、「わかりやすい情報発信」と「水源地域と受益者である下流地域との交流の促進」となる。 <p>(わかりやすい情報発信について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 城原川に関する歴史や文化は市内に多く残されており、こうした歴史と城原川ダムの治水事業を関連づけて市民に広くわかりやすく伝えられないか議論している。また、各作業部会の活動において、必ず城原川ダム事業の進捗について情報提供を求められるため、公表が難しい部分も多いとは思いますが、公開できる情報から随時提供していただければと考えている。今年度は、方針5部会のメンバーである神埼情報館が実施する「神埼塾」で城原川に関する講座を開催した。こうした大人向けの情報発信に取り組みつつ、今後は子ども向けの情報発信にも力を入れていきたい。 <p>(上下流交流について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム上流域の脊振地区で行われていることと、下流で行われていることの連携が必要。現在、下流域では「水の郷再生市民会議」が実施されており、これと本推進会議を連携して見学ツアーや勉強会を行えるよう考えている。 <p>(活動事例の紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先月に水源地域活性化推進会議のInstagramを立ち上げた。情報は高取山公園のアカウントや市の商工観光課のアカウントからも拡散している。今後は水源地域活性化のために作業部会の皆さんが行っているイベントなども発信していきたいので情報提供をお願いしたい。 昨年度は、市内企業から神埼市に寄贈されたコンテナ（脊振町内に設置してイベント用具等の保管に利用）に、脊振保育園の園児に故郷の絵を描いてもらい、子供たちや地域の人たちにも親しみを持ってもらう取組を実施。

	<ul style="list-style-type: none"> 8月に開催された「城原川ハンギー祭り」と「脊振町わんぱくまつり」などにプロスポーツチームを招き、祭りの魅力向上に努めた。今後も引き続き作業部会の各団体が主催するイベント等に、推進会議として協力できる部分があれば積極的に協力していきたいと考えている。 市民の大人向け講座「神埼塾」にて城原川の特性や過去の出水状況、流域治水について講演したことを紹介。また、前述の「水の郷再生市民会議」と連携した上下流の交流（河川清掃、河川ツアー）について紹介。
委員 1	<ul style="list-style-type: none"> （説明を聞いて）色々な活動が始まったなという気がして嬉しい。紹介のあった岩政ハッピーサロンは、市の高齢障がい課の応援を受けながら、立ち上げてもう7年目になる。やってみて地元野菜もさしみこんにゃくも段々上手に作れるようになった。さしみこんにゃくもスタート時は月100個も売れば良かったが、高取山公園の方々が色々応援してくれて、11月の九年庵公開の際には940個ぐらい売れた。今後は、神埼市の返礼品にも取り入れてもらうべく準備している。 先ほどの農地付き宅地の説明があったが、ハッピーサロンでも無農薬で体に優しい野菜を買いに来たよという人が増えてきた。今後、宅地付き農園などに取り組むようであるが、自分たちがやろうと思って始めた時も、もともと高齢者ばかりなので、野菜を提供する人がいなくなっている点が懸念される。それともう一つ、今、脊振はご存知のように小動物が大変多く、種をまいて育ててきたなと思ったらタヌキやイノシシに荒らされてしまう。だから、市民農園に対応するんだったら、獣害対策等（獣害を気にせずに）安心して作物の栽培ができますよということをおっしゃられたら素晴らしい取組になると思う。 それと、下流域のクリークが非常に汚れている。その原因で一番大きいのは樋管の整備がうまくいってないことだと思う。下流の千代田まで行く間に36樋管ぐらいあって、1か月くらい前に説明会があり、樋管の整備をして集落排水、環境用水としての水を確保するという将来構想があると聞いた。簡単にできるとは思わないが樋管を整備してきれいにしてほしい。（城原川ダムが）水を貯めるダムから孔あきダムになり、そこら辺がどうなるのかわからないが、地元としては直鳥城や姉川城の周りの水まできれいになったら素晴らしいなと思っている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 私から答えていいか微妙であるが、最初に話のあった市民の方が無農薬野菜の購入だとか、あるいは自分で栽培したいだとか、そういったニーズを直接お伺いしたということのようで、これから（市民）農園をどのようにしていくのかという段階で、その無農薬、つまりオーガニックな栽培を条件として募集をするのか。農園を利用したい人たちのニーズは多様であるが、農業関係の作業部会でそういった点も検討させていただこうと思う。 2番目の下流域の、特にクリーク地帯の問題であるが、これについては樋管の問題も含めて、水の郷再生市民会議というプロジェクトも一方で動いており、それはどちらかという平地部の水環境の再生に取り組むものであるため、今発言された内容は、水の郷の方でも重要なテーマとして挙げているので、そちらと連携を深めながら進めさせていただこうと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 確認ですが、さしみこんにゃくのこんにゃくは皆さん自身でこんにゃく芋を頑張っておられると思うが、それだけでは足りないだろうから、よそからの購入もしているのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> はい、間に合わないのでは今は大半がよそからのものになる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 本来であれば何とか地産地消型でこんにゃく芋の栽培が増えるようなことも、ちょっと検討が必要かなと思う。
委員	<p>(お知らせ) 自分たちの活動がNHKのBS、BS4Kで放映する「新日本風土記」という番組に取り上げられた。1時間番組内で10分ぐらいらしいが、BSの方が12月24日午後8時から、BS4Kの方が12月23日午後9時からとなる。</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> 市の方でも十分情報発信をして、特に新しいインスタのアカウントも作っているのだから、そういったところを通じてPRの協力をよろしくお願ひしたい。
議題2) 当面の活動内容 について (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> 資料10に基づき、各部会の活動内容について説明した。
議長： 各方針の確認	<ul style="list-style-type: none"> 方針1：木質バイオマスとか小水力発電などいわゆる再エネになる。つい最近、新聞報道で知ったが、市の方でゼロカーボンシティ宣言の検討を始めたと聞いている。市としての脱炭素行政経営の推進と、水源地域活性化で検討されているものについては、十分連携しなければいけないものと思っているので、市全体の取組と水源地域での取組の連携に十分配慮されるよう事務局にはお願ひしたい。 方針2：歴史文化に関してハード整備としても、先ほど話の出た桜街道の整備、魅力アップなどの項目も盛り込まれている。それから移住定住とも絡むが、宿泊施設の誘致・建設等という項目も含まれている。この中には空き家あるいは既存の施設等の利活用等も当然検討内容に含まれてくると思われる。 方針3：ここにあげられているインフラ整備（北部丘陵跡地）というのはかなり大きな面積を占める事業になる。こういったものとソフト事業との連携についても、作業部会の方でこれから煮詰めた検討が必要になっていくと思われる。 方針4：ここにある空き家相談所が空き家対策の突破口になると思われる。空き家相談所がうまく機能をするためのマンパワーというか、部会メンバーの方も専任ではないので、この辺は市全体の空き家対策も含めて何らかのマンパワーの強化はぜひ検討していただいたいと個人的に思う。
部会長 方針-4	<ul style="list-style-type: none"> その件に関して、マンパワー、ソフトパワーということで考えると、例えば隣の佐賀市の三瀬の方では、NPO法人のMurark（ムラーク）という所に集落支援員の女性の方を一人おいて主な仕事が移住定住の世話をするという形にしている。そういった空き家に関する専門性、例えば宅建の知識など、ただ空いているという情報ではとても済まないような、事細かなケアというか、力が必要になってくるので、（神埼でも）例えば集落支援員で移住定住をサポートするような人を置くとか、そういったことまでしないと、旗を立てて空き家相談所があるよというだけで終わってしまうことのないようにしてほしい。

議長	<ul style="list-style-type: none"> 私も同感である。空き家対策は全国的に行われているが、特に効果的な成果が見えているのは、やはり地域おこし協力隊とか集落支援員というマッチング等で努力してくれる人材、あるいは任期終了後にNPO法人のような組織の中で事業として継続していくようなところは、それなりに空き家対策がかなり進んでいるところだろうと思う。市の職員の力を私は十分認めているが、移住定住策の重要性を考えたときに、やはり一生懸命それに専従してくれる人材の確保というのものは是非事務局の方でも検討をお願いしたい。 方針5：行政主導の施策にある5Gのネット環境整備というのは、どれ位のタイムスパンで可能なのか。現状がどの段階にあって、どの程度の時間軸でこの地域に整備されていくのか。事務局でわかれば教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国の方で高速通信環境整備の補助金等が創設されており、総務省の方でも高速通信を推進しているが、市の状況はこの場では詳しくはわかりかねる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 次期地方創生戦略の予算の取り合いがそろそろ始まると思うが、そういったものも見据えて戦略的な取り組みを期待したいと思う。 他に何かご意見はあるか。検討すべき項目が非常に多くて、これを皆さんに持ち帰っていただいて、また作業部会等で御検討いただきながら、どのように事業を推進していくのかということ、別途、作業部会の部会長の連絡会議等で御相談したいと思っている。
議題3) 今後のスケジュールについて (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> 資料11に基づき、今後のスケジュールについて説明した。
委員（質問）	<ul style="list-style-type: none"> 先程、城原川の堰について話が出たが、2年くらい前に県の農林事務所だと思うが、合口（統廃合）などを検討しているとのことで、候補地等についてヒアリングをされていた。それについて現在の進捗状況などわかればお聞きしたい。
回答 (農林水産担当)	<ul style="list-style-type: none"> 城原川にある35樋管の統廃合に関して、集落の皆様への説明等も行ってきたところであるが、令和6年度において統廃合に関する今後の構想について業者に委託して、どれだけの数をまとめるか、堰をどこにするかといったことについて検討中である。この構想が出来上がれば、地区の方にご説明をして、ご理解をいただきながら実現に向けて進めていきたいと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> あわせて、ダム建設と同時に流域治水を前提にして河川改修等も当然行われるし、先ほどの堰あるいは樋管、そういったものの維持管理等についてかなり総合的な検討が必要かと思われる。市の方で検討するようにお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 高取山公園をリニューアルする際に、高取山の南側から（山頂に向けて）ゴンドラをはしらせてはどうか。たまたまイタリアに遊びに行ってみただが、一人用のゴンドラは維持費が非常に安い。高取山の南側は景観もいいし、今後できる土捨場の跡地利用で広い駐車場や遊び場もできると思う。そこら辺を利用して、ゴンドラまたはロープウェイで頂上まで行って、そこから反対側の高取山公園の施設がある側に行けるようにすればいいのではと自治会内で話している。

	<ul style="list-style-type: none"> • もう一つ、城原川の桜街道の話があったが、その対岸が、脊振溪谷と呼ばれて那珂川の溪谷と同じようにモミジ（紅葉）の名所だったとのこと。確かに城原川の東側は桜だけでも、西側はモミジの木がずっと並んでいて、めがね橋付近まで続いているので、これについても配慮してほしい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> • 高取山公園は本活性化推進会議でも、現時点における最重要な交流拠点という認識で多くの方々が一致している。
部会長（代理） 方針-3	<ul style="list-style-type: none"> • 今、高取山の話に出た道路であるが、シイタケの原木を置いていて、通していない状態にある。利活用の場として使うのであれば、そこら辺まで考えていかないと。この間、泥棒にシイタケを取られたこともあった。
議長	<ul style="list-style-type: none"> • 高取山公園、あるいはその周辺をどのように整備活用していくかは、多分、部会をまたぐような内容になるかと思う。これに限らず、部会間で調整すべき内容もあるので、検討材料として承りたいと思う。 • 他に意見が無いようなので、本日予定した議事はここまでとする。事務局に進行をお返しする。 (議事進行を議長から事務局に引き継いだ。)
その他連絡事項等 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> • 以下の点について、連絡を行った。 <ul style="list-style-type: none"> －当面、各部会より紹介のあった活動を中心に活性化施策に取り組んでいく。 －次回の第3回全体会議は、年明けの3月を目途に開催予定である。
閉会 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> • 神崎市水源地域活性化推進会議 第2回全体会議を閉会した。

－以 上－